

第3回小松島市中学校防災会議【中学生が学んだこと】

1 日 時 令和7年10月1日（水）15：00～16：50

2 場 所 小松島中学校 視聴覚室（3F）

3 参加者 市危機管理部危機管理政策課・市消防本部消防課・小松島警察署警備課
小松島市自主防災連合会・徳島大学環境防災センター・小松島高等学校・小
松島小学校・新開小学校・北小松島小学校・立江小学校・市内中学校・市内
中学校生徒代表・東日本大震災語り部 宮本 萌さん (42名)

4 テーマ 「避難所運営」

5 議 事

(1) 本会の趣旨説明

(2) 自己紹介

(3) 東日本大震災語り部 宮本 萌さんによるお話

(4) 各関係機関より「避難所について是非伝えたいこと」

A 小松島市危機管理部危機管理政策課

B 小松島市消防本部消防課

C 小松島警察署警備課

D 小松島市自主防災連合会

(5) グループ協議

目 的：顔の見える関係づくり

方 法：① A～D の関係機関とそれぞれ 10 分間、協議する

② 反時計回りに回る

進め方：① 参加校より不安に思っていることや課題

② 関係機関からの話

(6) 本会のまとめ

(7) 中学生からの感想

6 グループ協議で中学生が学んだこと

A 小松島市危機管理部危機管理政策課の方から

（お話を聞いて学んだこと）

○避難所生活は3日分ほど多めに食料備蓄しておく。自分の水は自分で用意する。10リットル（徳島県災害時相互応援連絡協議会補足「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」1日あたり500ml×6本=3リットル 3リットル×3日=9リットル）ほど。全部が避難所と言うわけではないから気をつける。1番に駆けつけてくれる市の職員は決まっているが、絶対に行けるとは限らない。椅子などはあれば良いかも。1196人に合わせて個数などを決めている（市の備蓄はあくまで「避難者全員」を対象としています）。自分自身の備蓄については、学校で置いておくか、各教室においても良いかも。手洗い系などのものがあれば。地域の人にも知ってもらうことも必要かも。

○防災グッズは簡易ベッドやトイレなどの組み立てなどの方法を知る必要がある。南中は開校して10年で、避難してきた人が学校の校舎を知らないので、図みたいなものを作るか避難の練

習をする必要がある。

○避難所は水のストックをしておく。10リットルくらい、1196人に合わせて。水で浸かってしまうと取りに行けないので、高い位置に置く。ペットボトルを入れた備蓄品を、学校に防災バックとして1つ置いておくべきでは。備蓄品の中にペットボトルも入れて、学校には防災バッグを1つ置いておくべきでは。5階か教室に置いておく。でも置く場所がないので、南中の5階のベランダに置いて、沖縄のタンクみたいにしてはどうか。避難所には足の怪我をしている人や高齢者などの人が使える部屋が必要?夜、学校は閉まっていてどうするか、その周りの地域の人が鍵を持っていたら大丈夫?手洗い系のものを持っていたらとても便利。災害が起ったとき便利なものは何か(食料以外で)。

○地震と津波が来てから、早く3日くらいで食料等の生活に必要なものが来るから、3日、多くても1週間分の食料や水を自分たちで用意しておくのが大切だと初めて知りました。学校などの施設における水の量は限られているから、家に用意しておいて、家で地震が来たときに持っていくのが一番良いとわかったけど、その時に忘れず持つていけるかわからないが頑張りたいと思った。

○ローリングストックなど、新しく知れた食料も問題の1つになっている。たくさんの食料を置くためのスペースも確保しないといけない。怪我をした人のために、折りたたみのいすのようなものが必要となってくる。怪我をしている人のためにも、避難場所をメインにしている。食料の他にも、トイレなどを水を使うものに困る。親に校舎を知つてもらい避難しやすくする。

○やはり食料の確保は大切だと学びました。ローリングストック法といった方法を教えてもらいました。買いすぎて持つていかなかったりもしますが、3日たっても食料などの必要なものや生活必需品が入ってこない場合もあるので、3日以上の必要なものも持つておいてダメだと言うわけではないと言うことを初めて知りました。僕は小松島中学校に通っていますが、地域の方々も避難してくるので、その食料はどうするのかと思っていました。そのことを僕の学校の防災担当の先生が質問したところ、まずは自助・共助が必要であると言うことを聞きました。このことから、自分の避難バックを作ることが必要と考えました。僕はそのようなバックは作っていないので、作る機会があれば作りたいです。初めて知ったことがたくさんあったのでとても良い経験になりました。

(この話をどのように周りに伝えたいか)

○どう動いたら良いか、飲料水などどれくらい必要かを会などで聞いて伝えるべきと思いました。

○この話をまず身近にいる家族や友達に、防災バックの中身のことや避難の仕方などを話して伝えたいと思いました。

○僕自身の口から、友達親に伝えたい。

○ポスターやネット、他にも身近な人に直接伝えたりする。

○まずは、自分の口から友達や家族にあったことを伝えたいです。

B 小松島市消防本部消防課の方から

(お話を聞いて学んだこと)

○身の安全が大事。避難場所は避難するところ。南中と松中に避難する人たちが多い。燃えやすいものを近くに置かない。救急車を呼ぶ、呼ばないじやなく、本当に必要と感じたら迷わず

呼ぶ。起こることを想定する。消防が食料を持っていく可能性も場合によっては起こりうる。

○ゴールデンタイム＝72時間以内に助ける。消防連絡手段として携帯は通信制限でかかりにくく、SNSを使って救助にいたったケースがある。火災の初期状態で消火をする。避難場所は身を守るところ。避難所は、普段の生活に戻るまでの場所。たくさん的人が避難してくると、全てを受けざるを得ない。燃えやすいものを近くに置かない。地震火災は、複数から出火する事があるので油断をしない。出火場所が変わるだけで、避難経路がすごく変わってくる。消防の人が避難所にも非常食などを届けてくれるのかということについては、非常食を届ける人が足りなくなり、市の本部から頼まれたら届けに行く可能性もある。

○徳島県のアンテナは眉山にあり、津波の被害が少ないため壊れにくい。地震の影響で火事が起こることもある。避難場所は安全を守るところ、避難所はそれからの生活をするところ。自分の地域では南中に避難をした方が良い。避難所ではトラブルや事件が起こることがある。

○消防の連絡手段は119番。大規模災害時、携帯電話がかかりにくくなるのでSNSを使って情報発信して救助につながった事例もある。自助・共助がほとんど。その場の状況で助けるかどうかを決める。津波がない時は消防活動をするが、初期なら消火器を使ってもいい。ブレーカーを避難時には切ること（感震ブレーカーは地震の揺れを検知してブレーカーを自動的に落とすが、感震ブレーカーが付いていない場合は自分で落としてから避難する）。避難場所は身の安全を守るところ、避難所はその後、過ごすところ。建物自体は燃えにくくても、中のものが燃えやすい。車も燃えやすい。ドローンなどの活用。消防は40人にいて、そのうち泊まりは10人。

○市民に比べて消防隊の数が少ない。近所の人たちが協力し、助け合うことが多い。その場の状況に対応して判断する。逃げる時はブレーカーを切る。避難場所と避難所の違いは、避難場所は命を守るために逃げていく場所であり、逃げてきた人を収容人数の限り受け入れる。避難所は生活する場所。

（この話をどのように周りに伝えたいか）

○思っている以上に、深刻なことを伝える。

○実際に被害にあった人たちの話を聞いたのは、僕たちしかいないから、広く伝えたい。

○地震の深刻さを伝える。

○関係者の方々から学んだことを私たちが受け継げるよう、多くのことを学んでいきたいです。

C 小松島警察署警備課の方から

（お話を聞いて学んだこと）

○海や山に囲まれている小松島において、自分は何をしたらいいのかを考える。何が起きるかわからない。1日から2日間は、警察でも対応しにくい。自分たちで防げること、できることをすることが大事。簡単な仕切りで男女を分ける。教員だけでは手が回らないので、中学生が主体となって行動する。夜間・休日、警察署は当直員が5人、交番員らをあわせて十数人の体制。ボランティアに見せかける犯罪もあるので貴重品を入れておくものを準備し、自分で管理する。石川の地震においては、警察は10人ぐらいで動いていたが、人命救助に行くのは難しい。まず、自分の身を守ることを大事にする。信号機が止まり、手で行っていたこともある。中学生が災害の時、大事な存在になる。まず自分に何ができるかを考える。

○災害が起ったときのことを考える。避難した後の家、空き家は2～3日後に空き巣に狙われやすくなるので、避難するときに貴重品を持っていく。肌身離さず持つておく。自己管理が

大切。中学生が中心になって、避難所運営ができるととても助けになる。警察署員は70人ほどいるが、夜間だと、すぐに動けるの人数は限られる。石川県の地震（1月1日）では、すぐに動けたのは10人ほどだった。警察の一番は人命救助。情報が大切。

○災害が起きたらの想像力が大切。発災直後、警察で動ける人数が少なく、人員をさけれない。大きな災害では、警察も消防も同じ被災者。どんな犯罪が起こるのかを想像するのが大切。発災直後の2～3日後では、自分の家が空き家状態になり、それでボランティアを装って金品を盗むこともある。警察署の人数は約70人だが、石川の地震では発災直後、警察で動けたのは10人。通報は来るけど、人命救助は難しい。金品は肌身離さず持つておく。中学生になつたら教員を助け支援を行う。情報は人命救助に大事。

○避難所で犯罪が起こる可能性があるので安心できないと思いましたけれど、女性と男性を分ける工夫をしていることがわかりました。避難している間に、家に犯罪が来る事は想えていたので、貴重品を持ち出すことも想えていかないといけないと思います。避難所では中学生が主体として運営していくのが理想だと聞いて、活躍できるようにしておこうと思いました。警察署には約70人いるけれど、夜間に災害が起きると当直員は5人しかいないそうなので、まずは自分たちでできることをしていきたいです。

○自分の身は自分で守ると言うことを聞いて、貴重品は自分で離さず持つていったほうがいいと言うことを知りました。いつ被害が起きてもおかしくないので、頭の片隅にどこに避難すれば良いのか、置いておけば良いと言うことを学んだ。

（この話をどのように周りに伝えたいか）

○家でご飯を食べるときに話したりしたいです。

○避難所に行くときに貴重品を持って行きたいです。そして、貴重品を肌身離さず、持つておくことの大切さを伝えたいです。

○全校集会で伝える。

○ポスターなどの張り出しをする。

D 小松島市自主防災連合会の方から

（お話を聞いて学んだこと）

○避難所で私たちにできることとして、「ラジオ体操・校内放送」などで。元気な声で、聞く人も元気になれる。震度5弱になるとトイレが使えない。

○トイレはビニールを重ねて流さない。

○震度5以上の地震はトイレが使えないくなる。災害時には先生や大人だけでなく、生徒の私たちも行動しないといけないなと思いました。私たちにできるボランティアがあると知つたので、災害が起つた際には、自分たちで行動できるようにしたいです。

○防災や災害を体験できるゲームがあることを知つた。大人も子どもも簡単に始められる。5弱以上でトイレが使えないことを知つた。ビニールで巻いて簡易トイレができる事を知つた。意外に避難所が少ないと驚いた。高台に避難できればいいと思った。

○自主防災組織は阪神淡路大震災でつくられた。避難所では犯罪が起きる。HUGなどで研修ができる。

○避難所、運営ゲームHUGと言うものがあるらしい。避難所のトイレが危ないらしいので、対策が必要。

(この話をどのように周りに伝えたいか)

- 母親に言う。
- 家族に知ったことを伝える。
- 新聞・テレビなど。